



浜松市佐浜より産出した右上顎切歯（パラタイプのレプリカ）。ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵。

5-6ページでご紹介したとおり、ナウマンゾウは静岡県ないでも多く産出しています。県内の産出地は、模式標本が産出した浜松市佐浜の佐浜泥層とその北部の石灰岩地帯内の裂罅堆積物（れっかたいせきぶつ）を合した19ヶ所、牧之原市に分布する古谷層では9ヶ所、静岡市有度丘陵に分布する久能山層で4ヶ所にもおよびます。産出地別の年代としては、佐浜泥層と裂罅堆積物が約30万～20万年前で、酸素同位体ステージのMIS9～7、古谷層が約12万年前でMIS5、久能山層が約17.8万～13万年前でMIS6に相当します。近藤

（2003）によれば、ナウマンゾウの産出層準は酸素同位体ステージMIS10～2にかけてで、MIS10～9が移入期、MIS7が分化期、MIS5が最盛期、MIS3が衰退期と4つの時代に区分でき、その間の寒冷期（MIS8、6、4、2）は、ナウマンゾウの全国的に産出が少なく、衰退した時代と考えられています。この時代区分によると、県内では、ナウマンゾウの移入期～最盛期にかけての広い範囲で産出が認められたこととなります。そして、MIS6に相当する久能山層は、全国的にも産出地が少ない時期にあたり、久能山層以外では千葉県上別所しかありません。P3-4でご紹介しました新に発見された切歯は、その産出数の少ない時代の切歯の化石となるわけです。

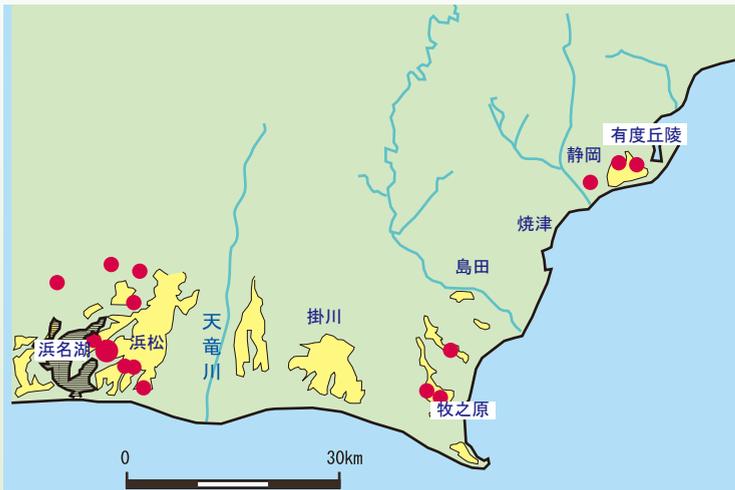
久能山層のこれまでの産出は、土（1958）の左上顎臼歯、柴（1991）の切歯、横山ほか（2019）の右下顎切歯の3標本で、これらすべて有度丘陵東側の南矢部から村松地域に分布する久能山層下部の村松礫シルト部層からのものでした。その年代は、約17.8万年前で、MIS6.6に相当します。新に発見された切歯は、それよりも新しく久能山層最上部で、その年代約13万年前（MIS6.2）と推定されます。



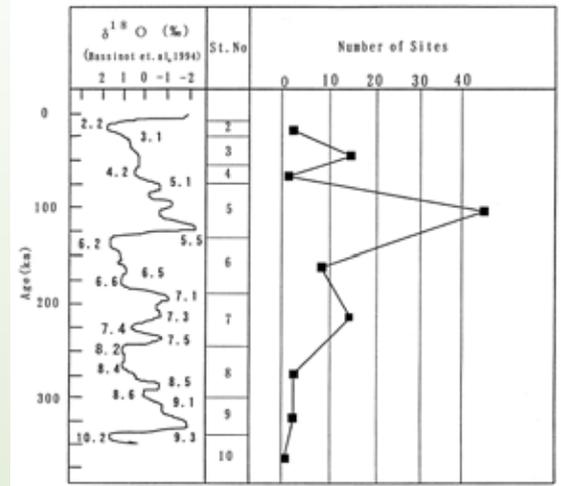
浜松市佐浜より産出した下顎（ホロタイプのレプリカ）。ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵。



ナウマンゾウの頭骨の復元。下顎は佐浜産。ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵。



静岡県のナウマンゾウ産出地. 赤マル：産出地点



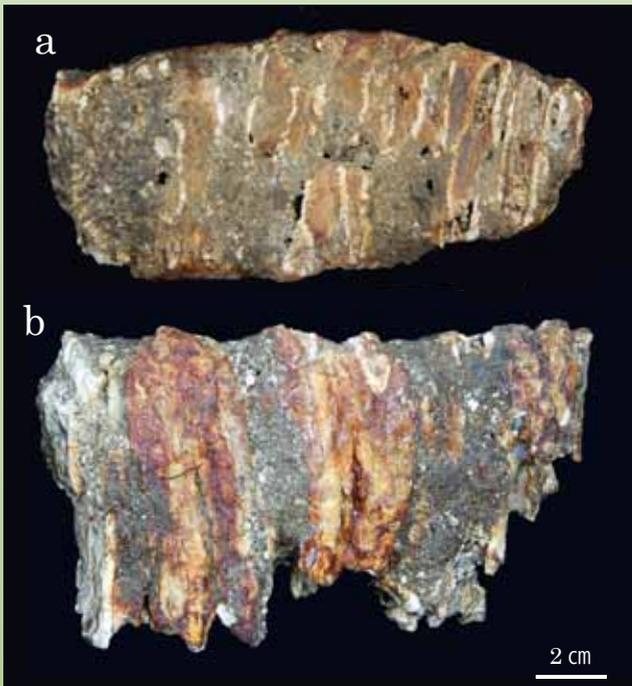
近藤洋一（2003）による酸素同位体ステージごとのナウマンゾウ化石の産出地点数.



旧榛原町静谷三栗川ウトロ沢産出の第三大臼歯



1913年（大正12年）にの右上顎第三大臼歯と左上顎第三大臼歯等が発見された旧相良町大知ヶ谷.



静岡市清水区南矢部で発見された右下顎臼歯（清水南矢部標本）。a: 咬合面, b: 頬側面。ふじのくに地球環境史ミュージアム所蔵。



右下顎臼歯（清水南矢部標本）が発見された地層



静岡市清水区村松で発見された切歯。東海大学海洋学部写真提供。